

# 神奈川施保連ニュース VOL.53

発行人 神奈川県知的障害者施設保護者会連合会会長 岩本邦雄

編集 同上 広報部会

発行所 同上 事務局 〒235-0021 横浜市磯子区岡村 岩本邦雄方

TEL&FAX045-751-1010



## 神奈川施保連第46回定期総会報告

平成26年7月6日横浜市社会福祉センターにて神奈川施保連の第46回定期総会が開催されました。総会後、講演会を行いテーマは「一人ひとりが適正な場を得た暮らしとは」(安心の中心)で(社会福祉法人 近江ふるさと会総括園長、元弘済学園園長、現顧問) 飯田雅子先生に講演して頂きました。

### 岩本会長挨拶

「神奈川施保連第46回定期総会に出席ありがとうございます。障害を持っていて人へ取巻く情勢は障害者基本法の一部改正、障害者差別解消法(平成28年施行)、国連障害者権利条約の批准等のニュースもあり、明るさも出てきています。

一方、施設における金銭問題や様々な虐待が相変わらず発生している。また、入所施設への待機者問題、65歳での介護保険の扱い、配置医師の問題等、問題・課題は我々の前に山積しています。神奈川施保連にご家族の皆様のご関心事項・意見・要望等を各保護者会を通じ、遠慮なく出して下さい。」という要望で挨拶を締めくくりました。

### 平成25年度活動報告

神奈川施保連は「知的障害のある人々の福祉の向上ならびに保護者会等の健全な発展に寄与する」という設立目的のもとに、あるべき福祉制度の実現と、各保護者会等

における活動のより一層の活性化に向けて取り組んできました。

1. 各保護者会等における共通課題への取組
  - (1) 高齢化・障がいの重度化への対応
  - (2) 地域生活移行への対応
2. 各保護者会等活動の一層の活性化に寄与する情報提供
  - 「調査部会」「総務部会」「交流部会」「広報部会」からの情報提供。
3. 他の障害団体との連携
  - 全施保連及び県内諸団体との連携を図った。
4. 各市町村との関係強化
  - それぞれの地域において、地方行政組織との関係を強化することに努めた。
5. その他課題への取組
  - 運営体制の強化
6. その他
  - 保護者会等交流会の実施
  - 組織拡大

平成25年度には、常任理事会、理事会等を定期的に開催した。(合計24回)、その他三役会議、部会会議は随時開催した。

### 決算報告

会計担当より、25年度決算書(一般会計、全国大会特別会計、特別基金会計)の説明があり、次いで山田監査より、決算内容はすべて適正に処理されている旨の報告があり、原案通り承認された。

### 平成26年度活動計画

#### 活動の基本方針

神奈川施保連は、知的障害のある人たちが本当に必要なとする福祉制度とは「障害の程度・態様やライフステージに応じて、入所施設・グループホーム・在宅などの多様な選択肢の中から、本人の選択によって、最もふさわしい場でふさわしい支援を受けられるもの」と考えている。

#### 具体的な取組

1. 各保護者会等における共通課題への取組
  - (1) 高齢化・障がいの重度化への対応
  - (2) 地域生活移行への対応
2. 各保護者会等の活動の一層の活性化に寄与する情報提供等
  - 「調査部会」「総務部会」「交流部会」「広報部会」4部会は、適時・適切な情報提供を行う。
3. 他の障害者団体との連携
  - (1) 全施保連が行う各種の活動に積極的に参加・支援する。
  - (2) 平成27年度に神奈川施保連が担当する第11回全国大会開催に向けて諸準備を進める。
  - (3) 県内諸団体との連携強化に努める。

4. 神奈川県及び各市町村との関係強化に努める。

#### 5. その他の課題への取組

- (1) 本格的な運営体制はこれまでどおりとする。
- (2) 人材育成に努める。
- (3) 保護者会等交流会を継続し実施する。なお、本年度のテーマは「施設利用者に対する支援の質・量の現実実態と望ましい改善の方向について」とし、それぞれの保護者会から出席者を募る。
- (4) 26年度も常任理事会・理事会等定期的に開催する。(日程表は総会資料参照)

#### 平成26年度予算

以上原案通り承認された。

#### 平成26年度予算

予算案(一般会計、全国大会特別会計、特別基金会計)は原案通り承認された。

#### 5. 役員選任の件

理事に一部変更があったが会長以下原案通り選任された。新理事に石川(愛名やまゆり園)、宮原厚木精華園、矢崎(のばら園) 鴨志田(リベルテ)以上の四氏が就任

#### 会長の決意表明

岩本会長から、「行政あるいは他の障害者団体から、入所施設固執と誤解を招くような主張をするのではなく、障害の程度・態様やライフステージに応じた、適切な生活の場を、幅広く考えて行く必要があるのではないだろうか。いずれにしても、皆さんとよく議論したうえで進めることにしたい。」との決意表明があり、定期総会を終了した。

# 講演会 一人ひとりが適正な場を得た暮らしとは ～安心の中身～

講師 飯田雅子氏  
社福 近江ふるさと会  
総括園長  
元弘済学園園長、現顧問



## 知的障害のある方、一人ひとりが生きる

人生を考えると、知的障害という束ね方は適切でなく、一人ひとりの障害の程度や障害からくる特性を十分考え、本人が安心・安全とすることを重視した、ライフサイクルにおける適正な場を考えると大切だと思えます。

障害があることは不運ではあるが、各々の人がよい人生であったと感じていただける施策を考え、実現していかねばならないと考えます。

そのために、彼らにどのような特性があるかをふまえ、どのような場が適正かについて考えてみたいと思います。

### 1. 知的障害のある方々

★一人ひとりを個別に捉え、一つに束ねてはダメ。

★障害の程度は『分かり方・技能の使い方』に表れる。人間の動きは脳と直結しているため、『脳にどの程度のインプットがあるのか』と捉えることからである。

★知性の面では弱いが、感性は健全者と変わるものではなく、むしろ鋭い。

★五感の機能がデコボコしているのが特徴(比較的耳からが入り難い)

★自己防衛本能と自己存在の確認本能は等しくあることを理解

することが重要。過去の体験が、それぞれの本能を満たしているかどうかで今の状態がある。

★従って、今の状態を正確に捉え、「よし」とする部分を増やす支援が必要で、課題の部分は許容しながらいく。

★『表情としぐさ(様子)』を物差しとして、その人のこころの状態を理解することが大事。

### 2. 彼らの適応状況

★日中活動の場は適応しやすい場である。自分の力を投入して充実感を得やすい。

★生活の場(ホーム等)は多面的でセルフコントロール力が求められる場なので、支援員のキメの細かい配慮が必要となる。

### 3. 本人の自立度に応じた支援

★ハード面では、場の活用の仕方を繰り返し学習することでクリヤーできる可能性が高い。

★ソフト面では気持ちを含めて、「今日は良かった。」と思えるように、どうするかになる。

### 4. 地域で暮らす場に求められるもの

★アパート生活をしながら自立している人には、困ったときに相談できる人が必要。

大半は家族が、課題を解決してしまいい、解決のサポートになっていない。課題をどうすれば解決できるかについて、の道筋を身につけさせる事が必要。

★グループホームを生活拠点とする

人は、メンバーのレベルと支援員とのマッチングが重要。メンバーのレベルを明確にして、支援員をあてるべきだが、現実には支援員の質に頼っているのが現状である。

★日中活動の場を様々な用意することとは構わないが、本人が変化についていける範囲での場の活用が必要。

★支援員の確保は難しい。

★老人介護の場では、手を上げる人がおらず、外国人の活用しかないのではないかが話題。

★コーデイネーターが育っておらず、話は聞けるが、方向付けができない。地域格差が大きく、首都圏は良いが地方は難しい現状。

★地域包括支援センターは仕事をしている人達を包括的に支援している。

★暮らしが良くなることを前提とした地域移行でないといけないし、弱ったときには入所施設に再入所できることが前提でなければならぬ。

### 5. 入所支援施設の役割

★個室のメリットは自立している人とダブルユーザーには良いが、一つひとつドアがあるため、支援員の手間がかかり、利用者のコミュニケーション不足を加速する可能性がある。

★支援区分に応じた支援(場とサービスのレベル)に応じた支援(場とサービスの提供)でなくてはならず、支援員がそのことを分かっている事が必要。

※40代に入ると弱りが出てきて、ある年齢を超えるとドドツとくる。

★医療との連携が重要で、支援員が医療を正しく認識して看護師の指導で適切に対応することが重要。

★終の棲家とするには、入所施設が、看取りまでやるのか、家族が本人の西後をどう描いているのかの確かめが必要。

★施設入所者以外の65才以降は、原則介護保険の対象となるが、老人入所介護施設に空きは無いのが実態。

※入居者44万人に対し、54万人の待機老人がいる。しかも、知的障害者への偏見があるのが現状。

### 6. 支援者の確保と人材育成

支援者が集まらないという現実、お互いに助け合う社会の一員として教育のありかたの見直しをして欲しい。

これが最大の課題であること認識する必要がある。

### 最後に

障害があるために、何らかの支援を得ての一人ひとりの快適な暮らしの実現こそが、本人に幸せ感を得ていただける自己実現となります。周りの思いを優先させた選択ではなく、本人を軸に、家族や関係する人たちが一丸となつて努力することが求められると考えています。

